



諫早湾干拓地では地力増進、土壌物理性改善のため緑肥栽培を推進していますが、バレイシヨやタマネギの収穫後から梅雨

播種・施肥法の違いによる緑肥（ソルガム）の生育と収量

播種法	草丈 (cm)	生草収量 (t/10a)	乾物収量 (t/10a)	乾物率 (%)
耕うん同時施肥播種	218.2	4.38	0.75	25.5
慣行体系播種	182.9	3.94	0.74	27.8

播種量：4 kg/10a

### 緑肥耕うん同時播種

## フロント施肥機活用 対応できない種子も

入りまでの期間は短く、播種（はしゅ）作業の効率化が求められます。当センターでは、既にバレイシヨの収穫同時播種機を開発していますが、幅広い品目に緑肥栽培を推進するため、フロン

台、発芽などに影響はなく、収穫時の莖数は1平方メートルあたり114本で通常播種（同100本）より多くなりました。耕うん作業は1回減り、10畝あたり35分の作業時間の短縮が可能です。ただし、種子の大きさや形状、播種量によっては対応できない草種もあります。今回使用した施肥機（タイシヨ1DS65F）速度0.1畝/秒で試算）ではソルガム、エン麦、クロータリア、セスバニア、エビスグサは播種可能でしたが、ギニアグラス、トウモロコシ、ヒマワリでは適正量を播種できませんでした。

ト型施肥機を活用した効率的な緑肥播種技術を開発しました。種子の散布量は肥料より少ないため、取り込み口であるロー部を制御します。ソルガムの場合、散

なお、タンク内を仕切り、片方に肥料、片方に種子を入れ、排出口を交差させることで、播種と同時に施肥も可能です。この場合、若干のまきむらが発生しますが、ソルガムでは生草収量が10畝あたり4トを超え、通常播種並みの収量確保が可能です。ことを確認しています。

（長崎県農林技術開発センター 平山裕介）